

●科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ	●講師名	阿部 裕実・水尻 康仁・山本 一真
●授業のねらい	言語聴覚障害診断で使用される検査の基本的な実施方法を身につける		
●学習目標	言語聴覚障害診断方法の基礎のひとつに、総合的な言語検査の実施がある。 今回は現場での使用頻度の高いSLTA（標準失語症検査）を用いて基本的な実施方法を身につけることとする。言語検査では、相手の反応に対してその場での判断と行動が求められる。 よって、決められた提示だけではなく、相手の症状に応じて適切な行動をとることができることを目標とする。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	オリエンテーション、SLTA	講義の進め方、SLTAの検査目的について
	2	SLTA	検査の下位項目「聴く」の実施方法の解説と演習
	3	SLTA	検査の下位項目「話す」の実施方法の解説と演習
	4	SLTA	検査の下位項目「話す」「読む」の実施方法の解説と演習
	5	SLTA	検査の下位項目「読む」「書く」の実施方法の解説と演習
	6	SLTA	検査の下位項目「書く」の実施方法の解説と演習
	7	SLTA	検査の全下位項目の演習
	8	試験	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	試験（50%）、模擬検査場面の動画提出（30%）、出席（10%）、レポート（10%）		
●教科書	標準失語症検査マニュアル. 新興医学出版社. 改定第2版. 2003		
●参考書	授業内で配布する		
●備考	SLTAの解説動画（約2GB）があるので視聴環境を整えること		

●科目名	失語症Ⅱ		●講師名	浜田 智哉・黒川 容輔・山本 一真 阿部 裕実・水尻 康仁・宇野 彰
●授業のねらい	失語症、高次脳機能障害の臨床の基本がわかる			
●学習目標	脳画像（MRI、CT）から障害部位と予想される障害が説明できる スクリーニング検査を作成し、模擬患者に実施できる 標準化された高次脳機能検査の適応と手続きについて理解し、説明できる SOAP形式のカルテ記載方法を理解し、再現性のある記録をつけることができる 小児失語について理解し、説明できる			
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	脳画像	オンデマンド：脳画像読影	
	2	脳画像	基本編：演習、解説	
	3	脳画像	言語野：演習、解説	
	4	脳画像	脳血管障害：演習、解説	
	5	脳画像	認知症：演習、解説	
	6	スクリーニング・検査法	オンデマンド：スクリーニング検査の自作	
	7	スクリーニング・検査法	対面：各種障害とスクリーニングと検査法	
	8	スクリーニング・検査法	対面：各種障害とスクリーニングと検査法	
	9	スクリーニング・検査法	対面：各種障害とスクリーニングと検査法	
	10	スクリーニング・検査法	ゲストスピーカー	
	11	スクリーニング・検査法	ゲストスピーカー	
	12	スクリーニング・検査法	模擬患者への実施	
	13	スクリーニング・検査法	模擬患者への実施	
	14	スクリーニング・検査法	模擬患者への実施	
	15	スクリーニング・検査法	模擬患者への実施	
	16	記録・カルテ	演習、解説	
	17	記録・カルテ	演習、解説	
	18	記録・カルテ	演習、解説	
	19	記録・カルテ	演習、解説	
	20	記録・カルテ	演習、解説	
	21	記録・カルテ	演習、解説	
	22	記録・カルテ	演習、解説	
	23	記録・カルテ	演習、解説	
	24	記録・カルテ	演習、解説	
	25	記録・カルテ	演習、解説	
	26	記録・カルテ	演習、解説	
	27	記録・カルテ	演習、解説	
	28	記録・カルテ	演習、解説	
	28	小児失語		
29	小児失語			
15	定期試験			
●成績評価	筆記試験100点			
●教科書	医学書院 標準言語聴覚障害学 失語症 医学書院 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害			
●参考書	適宜配布する			
●備考				

●科目名	高次脳機能障害Ⅱ	●講師名	黒川・浜田・阿部・水尻・山本
●授業のねらい	評価・訓練の基本的な知識・技術・態度を身につける		
●学習目標	評価から訓練立案までを区切りながら、問題解決型学習を用いてどのようなアクションがふさわしいかを自主的に学ぶ。目標としては、対象の状態・時期・状況から必要な情報が何かを挙げることができる、評価方法を選択することができる、結果から障害メカニズムを構築することができる、訓練目標を立てることができる、となる。総合的な能力が要求されるため、他の教科も含め復習をしておくこと。		
●方法	講義・演習・その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	症例 1	ワークショップ（脳画像、情報収集、検査、訓練立案）、解説
	2	症例 2	ワークショップ（脳画像、情報収集、検査、訓練立案）、解説
	3	症例 3	ワークショップ（脳画像、情報収集、検査、訓練立案）、解説
	4	症例 4	ワークショップ（脳画像、情報収集、検査、訓練立案）、解説
	5	症例 5	ワークショップ（脳画像、情報収集、検査、訓練立案）、解説
	6	症例 6	ワークショップ（脳画像、情報収集、検査、訓練立案）、解説
	7	症例 7	ワークショップ（脳画像、情報収集、検査、訓練立案）、解説
	8	試験	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	試験100%		
●教科書	これまでに持っているものすべて		
●参考書	適宜配布する		
●備考			

●科目名	言語発達障害Ⅲ	●講師名	宇野 彰・鈴木 圭子
●授業のねらい	発達障害の概念、定義を理解し、それぞれの疾患の言語発達障害についての知識を身に付ける		
●学習目標	学習障害の臨床について理解する。 DSMとICDについて理解する。 DSM-5の診断基準を理解する。 それぞれの疾患と言語発達障害との関連を理解する。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	学習障害	
	2	学習障害	
	3	学習障害	
	4	学習障害	
	5	学習障害	
	6	学習障害	
	7	学習障害	
	8	学習障害	
	9	DSM、ICD、発達障害の概念	対面講義、DSM・ICDとは、発達障害の概念の変遷
	10	発達障害の様々な定義	対面講義、医療・教育・保健福祉における定義と法律
	11	DSM-5 知的能力障害群	対面講義、知的障害の診断基準、評価と診断
	12	知的障害の言語発達	対面講義、知的障害児の言語発達支援
	13	DSM-5 コミュニケーション障害群	対面講義、SLI・機能的構音障害・吃音の診断基準、評価と診断
	14	言語発達遅滞	対面講義、SLIの言語発達支援
	15	DSM-5 自閉症スペクトラム障害	対面講義、ASDの診断基準、評価と診断
	16	自閉症スペクトラム障害の言語発達	対面講義、ASDの言語発達支援
	17	DSM-5 注意欠如・多動性障害	対面講義、ADHDの診断基準、評価と診断
	18	注意欠如・多動性障害の言語発達	対面講義、ADHDの言語発達支援
	19	DSM-5 限局性学習障害 DSM-5 運動障害群	対面講義、LD（ディスレクシア）・DCDの診断基準、評価と診断
	20	学習障害・発達性強調運動障害の言語発達	対面講義、LD・DCDの言語発達支援
	21	ICD-10 脳性麻痺	対面講義、定義、原因、症状、重症心身障害児
	22	脳性麻痺の言語発達	対面講義、脳性麻痺の言語発達支援
	23	まとめ	確認試験
●成績評価	試験100%		
●教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」第2版		
●参考書	医学書院「DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き」		
●備考	毎回、講義資料を配布します。 講義の順番は、時間割によって前後することがあります。		

●科目名	言語発達障害IV		●講師名	馬目 雪枝・鈴木 圭子	
●授業のねらい	対象児の現在の状態を客観的、具体的に把握するために、各検査の特性を理解し、検査の手続きと結果の解釈に関する知識を身に付ける 発達支援方法を理解し、対象児に合わせて適切に訓練を立案できる 種々の言語				
●学習目標	検査用具を適切に使用し、滞りなく検査を遂行できる。 検査結果を、先に収集した主訴や発達歴などの情報とあわせて、対象児の全体像を記述することができる。 対象児の全体像を基に、言語療法の目標を設定し、訓練プログラムを作成できる。				
●方法	講義・演習・その他				
●授業計画	回数	項目	内容		
	1	種々の発達検査	新版K式、津守稲毛式、KIDS、遠城寺などの発達検査		
	2	発達検査演習	津守稲毛式の結果まとめ		
	3	種々の知能検査	田中ビネー、WISC、WPPSI、KABC-II、DN-CASなどの知能検査		
	4	知能検査演習①	田中ビネー知能検査Vの結果まとめ		
	5	知能検査演習②	WISC-IV知能検査の結果まとめ		
	6	種々の言語検査	LCスケール、LCSA、国リハ式<S-S法>、ITPAなどの言語検査		
	7	言語検査演習①	国リハ式<S-S法>の結果まとめ		
	8	言語検査演習②	LCスケールの結果まとめ		
	9	そのほかの検査	語彙・統語・音韻・語用に関する検査		
	10	検査演習	PVT-Rの結果のまとめ、質問応答関係検査の結果のまとめ		
	11	ケーススタディ①初回問診	①初回問診と収集した情報のまとめ		
	12	①初回評価	①田中ビネーとLCスケールの結果のまとめ		
	13	①全体像・問題点の抽出・目標設定	①情報を統合して、対象児の全体像を記述		
	14	ケーススタディ②初回問診	②初回問診と収集した情報のまとめ		
	15	②初回評価	②田中ビネーとLCスケールの結果のまとめ		
	16	②全体像・問題点の抽出・目標設定	②情報を統合して、対象児の全体像を記述		
	17	言語発達	語彙（意味）・統語・音韻・語用		
	18	<S-S法>	<S-S法>訓練、スモールステップ		
	19	TEACCH自閉症プログラム	構造化、視覚支援		
	20	語用論的アプローチ インリアル（INREAL）	コミュニケーション支援		
	21	ケーススタディ①訓練立案	1時間の訓練の構成と課題の目的		
	22	ケーススタディ②訓練立案	課題の手続きと実施		
	23	まとめ	確認試験		
●成績評価	課題の提出30%、試験70%				
●教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」第2版				
●参考書					
●備考					

●科目名	音声障害	●講師名	小林 誉子・山本 一真
●授業のねらい	音声障害の臨床について理解し、評価・訓練についても説明することができる。		
●学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音声障害の定義と病態を説明できる。 ・音声障害の発生メカニズムと分類について説明できる。 ・音声障害の検査・評価について項目を挙げて具体的に説明できる。 ・音声障害の指導・訓練について項目を挙げて具体的に説明できる。 		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	音声障害の基礎知識の確認	音声障害の定義と病態について確認
	2	声の特性と機能	声に含まれる情報・声の変異性(高さ・大きさ・声質・持続)
	3	音声障害の原因	音声障害の発生メカニズムと分類
	4	音声障害の検査・評価1	内視鏡検査・聴覚心理的評価・音響分析による評価
	5	音声障害の検査・評価2	発声の能力と機能の検査・自覚的評価
	6	音声障害の指導・訓練	声の衛生指導・症状対処的音声訓練
	7	音声障害の指導・訓練	包括的音声訓練・症例検討
	8	全体のまとめ(定期試験)	定期試験
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	定期試験(100%)		
●教科書	「言語聴覚士のための音声障害学」大森孝一(編). 医歯薬出版株式会社. 2015		
●参考書	「新編 声の検査法」日本音声言語医学会(編). 医歯薬出版株式会社. 2009		
●備考			

●科目名	構音障害Ⅲ	●講師名	鈴木 圭子・水尻 康仁
●授業のねらい	器質性構音障害と運動障害性構音障害の基礎知識を身に付けるために、器質性構音障害の定義と分類を理解し、検査結果のまとめと訓練の立案について学ぶ。また構音障害の評価のために必要な各種検査の手順を学び、実際の臨床で実施できるように準備をする。		
●学習目標	器質性構音障害の定義を説明し、原因疾患を理解することができる。 器質性構音障害の音の誤り方を説明することができる。 器質性構音障害の検査を実施し、結果の分析をすることができる。 器質性構音障害の発達時期にあった治療・訓練法について説明することができる。 構音障害の検査について検査内容・実施手順を説明することができる。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	器質性構音障害の定義	構音障害の定義、器質性構音障害の原因疾患
	2	器質性構音障害の音の誤り方	口蓋裂言語
	3	器質性構音障害の検査	口蓋裂言語検査、鼻咽腔閉鎖機能検査
	4	器質性構音障害の治療・訓練法	乳児期～成人期までの言語臨床について
	5	運動障害性構音障害	定義・分類など
	6	運動障害性構音障害の検査	主に標準ディサースリア検査の実施
	7	運動障害性構音障害の検査	主に標準ディサースリア検査の実施
	8	運動障害性構音障害の検査	主に標準ディサースリア検査の実施
	9	運動障害性構音障害の検査	標準ディサースリア検査とその他の検査
	10	運動障害性構音障害の検査	標準ディサースリア検査とその他の検査
	11	運動障害性構音障害の検査	標準ディサースリア検査とその他の検査
	12	運動障害性構音障害の検査	標準ディサースリア検査とその他の検査
	13	運動障害性構音障害の検査	標準ディサースリア検査とその他の検査
	14	運動障害性構音障害の検査	標準ディサースリア検査とその他の検査
	15	定期試験	
●成績評価	試験100%		
●教科書	授業内で資料を配布		
●参考書	口蓋裂の言語臨床 第3版, 医学書院, 2011		
●備考			

●科目名	嚥下障害Ⅱ	●講師名	中山 剛志
●授業のねらい	摂食嚥下障害の臨床に必要な基礎的な知識を習得する。		
●学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害の基礎知識（どのような問題が生じるか、嚥下モデル、嚥下反射機構、誤嚥、全身状態と嚥下の関連、気管切開と嚥下の関連、代替栄養）について説明することができる。 ・摂食嚥下障害の評価の概要について説明することができる。 ・摂食嚥下障害の指導・訓練・治療法の概要について説明することができる。 		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	基礎知識（1）	「嚥下障害Ⅰ」授業内容の復習
	2	基礎知識（2）	「嚥下障害Ⅰ」授業内容の復習
	3	評価（1）	全身状態の評価
	4	評価（2）	言語聴覚士が行う評価
	5	評価（3）	医師が行う評価
	6	指導・訓練・治療（1）	嚥下調整食、代償法、間接訓練（基礎訓練）
	7	指導・訓練・治療（2）	直接訓練（摂食訓練）、口腔衛生、補綴
	8	指導・訓練・治療（3）	外科的治療（嚥下機能改善術、誤嚥防止術）
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	試験（筆記試験または課題）100%		
●教科書	倉智雅子（編）：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学. 医歯薬出版, 2013. （※1年次購入済み）		
●参考書	授業内で紹介する。		
●備考	三枝英人先生ご担当分を含め「嚥下障害Ⅰ」の授業内容を復習の上、授業に臨むことを強く願う。		

●科目名	吃音Ⅱ	●講師名	馬目 雪枝
●授業のねらい	吃音の定義、診断基準、原因、症状分類などの知識を身に付け、評価法や治療法を正しく適用できる。		
●学習目標	吃音を適切に観察し、情報収集し、記述し、評価できる。 適切な治療法を選択できる。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	吃音とは	発達性吃音、獲得性吃音（神経原性、心因性）
	2	吃音の疫学、原因、病態生理	自然治癒、左弓状束や脳梁等の白質異常、吃音の進展
	3	吃音の症状と診断・評価	吃音検査法、中核症状、随伴症状、DSM-5
	4	吃音の治療 幼児期	間接法（DCM）、直接法（リッカムプログラム）
	5	吃音の治療 学齢期	多面的・包括的アプローチ、流暢性形成法、吃音緩和法
	6	吃音の治療 思春期以降（成人）	流暢性形成法、吃音緩和法、メンタルリハーサル法、認知行動療法
	7	吃音の社会的な環境調整	就労支援、精神障害者保健福祉手帳、障害者差別解消法、セルフヘルプグループ
	8	まとめ	試験
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	試験100%		
●教科書	医学書院「標準言語聴覚障害 発声発語障害学」第3版？ 第2版？		
●参考書			
●備考	毎回、資料を配布します。		

●科目名	成人聴覚障害 I	●講師名	小林 誉子・山本 一真
●授業のねらい	成人聴覚障害の評価および指導・訓練の内容を理解し、支援方法について説明することができる。		
●学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚の機能と働きについて解説できる。 ・聴覚障害の定義と分類について解説できる。 ・聴覚障害の評価項目と内容について解説できる。 ・聴覚補償機器について解説できる。 ・聴覚障害の指導・訓練について理解し、支援方法を具体的に説明することができる。 		
●方法	講義・演習・その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	聴覚の機能	聴覚の機能と働き
	2	聴覚の発達	聴性行動反応の発達
	3	聴覚器官の解剖・生理	聴覚器官の発生・解剖と生理
	4	聴覚障害の概要	聴覚障害の定義・分類
	5	聴覚の病理 1	末梢感覚器官の疾患
	6	聴覚の病理 2	中枢聴覚伝導路の疾患、聴力の変動につて
	7	聴覚の機能～病理・まとめ	聴覚の機能～病理、確認試験
	8	聴覚障害の評価 1	評価の概要
	9	聴覚障害の評価 2	聴覚機能検査
	10	聴覚障害の評価 3	評価の観点・聴覚の評価
	11	聴覚障害の評価 4	コミュニケーション方法の評価
	12	聴覚障害の評価 5	コミュニケーションストラテジーの評価
	13	聴覚障害の評価 6	その他の評価
	14	聴覚障害の評価・まとめ	聴覚障害の評価、確認試験
	15	聴覚補償機器 1	補聴器・構造と機能
	16	聴覚補償機器 2	補聴器・適合の理論と実際
	17	聴覚補償機器 3	人工聴覚器の種類
	18	聴覚補償機器 4	人工内耳
	19	聴覚補償機器 5	補聴器と人工内耳の違い
	20	聴覚補償機器 6	補聴援助システム
	21	聴覚補償機器・まとめ	聴覚補償器、確認試験
	22	聴覚障害の指導・訓練 1	成人のリハビリテーションの目的と観点
	23	聴覚障害の指導・訓練 2	補聴と残存聴力の活用
	24	バリアフリーと社会資源 1	情報保障
	25	バリアフリーと社会資源 2	社会資源
	26	聴覚障害の指導・訓練 3	コミュニケーション障害の改善
	27	聴覚障害の指導・訓練 4	障害認識と障害受容を促す支援
	28	コミュニケーション手段と支援 1	聴覚的手段・視覚的手段・触覚的手段
	29	コミュニケーション手段と支援 2	聴覚活用・視覚活用
	30	聴覚障害の指導・訓練・まとめ	聴覚障害の指導・訓練、確認試験
●成績評価	確認試験（4回：計100%）		
●教科書	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」医学書院、2015		
●参考書			
●備考			

●科目名	成人聴覚障害Ⅱ	●講師名	内藤 明
●授業のねらい	成人聴覚障害の臨床を理解する		
●学習目標	各疾患の特徴と診断までの流れを理解する		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	聴覚障害の分類と発症機序	
	2	聴覚障害の疫学とQOL	
	3	伝音性難聴(診断までの流れ, 検査含む)	
	4	内耳性難聴Ⅰ(診断までの流れ, 検査含む)	
	5	内耳性難聴Ⅱ(平衡機能, 検査含む)	
	6	後迷路性難聴(診断までの流れ, 検査含む)	
	7	聴覚リハビリテーション	
	8	試験	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	試験100%		
●教科書	「よくわかる 聴覚障害 難聴と耳鳴のすべて 編集 ; 小川 郁 , 永井書店		
●参考書			
●備考			

●科目名	補聴器・人工内耳	●講師名	人工内耳：内藤 明 補聴器：三浦 悠水
●授業のねらい	人工内耳の臨床を理解する 補聴器について正しい知識を学び、リハビリとしての捉え方を理解する。		
●学習目標	人工内耳：先進医療の可能性と限界を理解する 補聴器：補聴器についての基本的知識を理解する。 補聴器装用者への必要な指導が説明できる。 難聴者に対してのアプローチ方法を幅広く考えられる。 言語聴覚士としての補聴器へのかかわり方を理解する。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	高度難聴のリ・ハビリテーション	人工内耳
	2	システムの原理	人工内耳
	3	適応	人工内耳
	4	術前検査	人工内耳
	5	手術と術後の注意点	人工内耳
	6	術後のリ・ハビリテーション	人工内耳
	7	マッピング・聴能言語訓練	人工内耳
	8	装用後の聴取能	人工内耳
	9	会話聴取能に与える影響因子	人工内耳
	10	残存聴力活用型人工内耳（EAS）、 聴性脳幹インプラント（ABI）	人工内耳
	11	補聴器の機能や効果など	補聴器
	12	補聴器作成・調整に必要な耳型採取と 聴力測定の方法	補聴器
	13	補聴器の器種選択や調整	補聴器
	14	補聴器の器種選択や調整	補聴器
15	定期試験		
●成績評価	試験100%		
●教科書	人工内耳：冊子「人工内耳装用者の言語聴取能に与える影響因子」内藤 明 著 補聴器：配布する資料		
●参考書			
●備考	人工内耳と補聴器の順番は、時間割の都合上前後することがあります。		

●科目名	視聴覚二重障害	●講師名	前田 晃秀
●授業のねらい	視聴覚二重障害者（盲ろう児・者）の状態像を理解し、その評価と支援の方法について学ぶ		
●学習目標	①障害程度、発症時期・順序による分類と状態像を理解する。 ②さまざまなコミュニケーション手段を理解する。 ③コミュニケーション手段の導入の際の評価と支援の方法を理解する ④先天性盲ろう児の発達論的観点と教育方法について理解する。 ⑤視聴覚二重障害の発症に関わる疾患について理解する。 ⑥視聴覚二重障害者が活用可能な社会資源について理解する。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	視聴覚二重障害とは	オンデマンド：定義、障害の状態・程度、受障経緯
	2	コミュニケーション手段①（聴覚）	オンデマンド：音声（聴覚）によるコミュニケーション手段
	3	コミュニケーション手段②（視覚）	オンデマンド：弱視手話、筆談によるコミュニケーション手段
	4	コミュニケーション手段③（触覚）	オンデマンド：触手話、指点字等によるコミュニケーション手段
	5	先天性盲ろう児の評価と対応①	オンデマンド：先天性盲ろう児の実態とコミュニケーション
	6	先天性盲ろう児の評価と対応②	オンデマンド；先天性盲ろう児の発達支援
	7	盲ろうの病理、福祉的支援	オンデマンド：原因疾患、生活実態と社会資源
	8	定期試験	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
●成績評価	試験（100%）		
●教科書	使用しない		
●参考書	全国盲ろう者協会編「盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者のための手引書」 http://www.jdba.or.jp/db/profile.cgi?_v=1463638851&tpl=view2		
●備考			

●科目名	統計学		●講師名	藤江 昌嗣
●授業のねらい				
●学習目標	<p>統計学は、基本的には、データ・情報のまとめ方を主たる内容とする記述統計と確率論をベースとする推測統計によって構成されるが、IT化の進んだ現在において、伝統的な調査に基づく統計のみならず、業務記録やさまざまな調査・アンケートによるデータ・情報が存在している。ビッグデータもその一つと言えよう。</p> <p>本講義では、初めて統計学を学ぶ者にこうした特徴や差異をもつ統計・データ・情報を対象に、統計的手法と統計的ものの見方・考え方の適用可能性について説明していく予定である。具体的には、データのまとめ方とデータ間の関係の測度についての基本的知識並びに推測統計的なものの見方・考え方、分析手順等を修得することを目標とする。電卓を必携とする。</p>			
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他			
●授業計画	回数	項目	内容	
	1	数の分類、データの尺度とまとめ方	数の分類とデータの尺度構造の説明 データのまとめ方（度数分布表やグラフの作成方法） さまざまなグラフ	
	2	データの位置(軸・中心)の測度	データの位置の測度-最頻値, 中央値, 平均概念・算術平均 分位数等-や変化の測度-調和平均, 幾何平均等について	
	3	データの散布度の測定	データの散布度-散らばり具合-の測定値について、 範囲, 分散, 変異係数データの範囲と割合- 3σ のルール 等	
	4	データの変化の測定	変化率, 指数, 比率, 寄与度・寄与率等	
	5	データ間の関係の強さの測度	関連係数 Q 相関係数 r	
	6	確率論と確率の見方, 確率の公理	確率論と確率 的見方, 確率 の公理	
	7	統計的検定の手順について-正規分布と t分布	正規分布表とt分布表を用いた統計的検定の手順につい て	
	8	統計的検定について	x ² 分布を含むさまざまな分布表を用いた統計的検定の方 法について	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
●成績評価	グループ作業への参加と協調50%、筆記試験50%			
●教科書	藤江『新ビジネス・スタティスティクス』 富山房インターナショナル、2016			
●参考書	使用しない。			
●備考	グループ作業と個人の演習はほぼ毎回行う予定である。			

●科目名	チームアプローチ論		●講師名 三原 啓正(言語聴覚士) 畠田 将行(理学療法士) 杉谷 翔(作業療法士) 射手矢 詠実子(管理栄養士) 中基 くるみ(歯科衛生士) 鈴木 孝宗(社会福祉士)
●授業のねらい	チームアプローチにおける様々な職種の役割を理解し言語聴覚士としての役割を身に付ける		
●学習目標	チームアプローチの概念を理解し説明できる。 言語聴覚士としての倫理と役割を考え、多職種連携の概念を説明できる。 理学療法士, 作業療法士, 管理栄養士, 歯科衛生士および社会福祉士等の他職種を理解し説明できる。		
●方法	講義・演習・その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	リハビリテーションとチームアプローチの意義(三原)	対面方式：障がいとリハビリテーション医学の関係
	2	リハビリテーション専門職の役割(三原)	対面方式：専門職の種類や特徴・役割
	3	医療者になるための準備①(三原)	対面方式：対人援助職としての心構え 他職種の理解と協働 グループワーク
	4	医療者になるための準備②(三原)	
	5	言語聴覚士になるための準備①(三原)	対面方式：自分自身の理解 臨床で役立つコミュニケーションスキルを備える グループワーク
	6	言語聴覚士になるための準備②(三原)	
	7	チームアプローチの考え方(三原)	対面方式：言語聴覚士が対象者や他職種から求められること
	8	チームの中での言語聴覚士(三原)	
	9	作業療法士①(杉谷)	対面方式：作業療法士の役割と職域 言語聴覚士が知っておくべき作業療法士のこと
	10	作業療法士②(杉谷)	対面方式：作業療法体験、MTDLPの理解
	11	理学療法士①(畠田)	対面方式：理学療法士の役割と職域 STが知っておくべき理学療法士のこと
	12	理学療法士②(畠田)	
	13	社会福祉士(鈴木)	対面方式：社会福祉士の役割と職域 STが知っておくべき社会福祉士のこと
	14	管理栄養士(射手矢), 歯科衛生士(中基)	対面方式：管理栄養士の役割と職域、STが知っておくべき管理栄養士のこと 対面方式：歯科衛生士の役割と職域、STが知っておくべき歯科衛生士のこと
	15		
●成績評価	レポート		
●教科書	指定なし		
●参考書	授業内で配布		
●備考			

●科目名	総合演習	●講師名	専任教員
●授業のねらい	臨床における総合的な視点を持ち、対応する能力を身につける		
●学習目標	臨床においては、多くの領域を俯瞰的、横断的な視点で考え、さらに評価・訓練を実施する必要がある。すなわち、総合的な能力を身につける必要がある。 本演習においては、臨床上必要な知識・技術を領域横断的な演習によって身につけることを目標とする。		
●方法	講義 ・ 演習 ・ その他		
●授業計画	回数	項目	内容
	1	訪問リハ	オンデマンド
	2	訪問リハ	オンデマンド
	3	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	4	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	5	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	6	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	7	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	8	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	9	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	10	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	11	発声発語・嚥下障害演習	オンデマンド
	12	調整中	実習オリエンテーション、検査練習、学習方法、感染対策、当事者体験、臨床見学、研修会や学会への参加・運営等（計25コマ相当）
	13		
	14		
15			
●成績評価	出席＋授業態度＋レポート		
●教科書	必要あれば講義時に配布する		
●参考書	なし		
●備考	講義担当者・内容・時期・評価方法については調整中。確定後に掲示する。		